



あすかの活動・行事参加(2019年9月15日～2019年11月10日)

- 9月 19日(木) 相談会 役員会
21日(土) リハセン福祉機器展
25日(水) パイロットクラブ「愛・夢コンサート」
26日(木) 奈良県精神保健福祉協会設立総会
28日(土) 相談会 奈良県高次脳機能障害研修会
10月 3日(木) 相談会 役員会 支援事業のチラシ発送作業
4日(金) 第20回奈良高次脳機能障害リハビリテーション講習会実行委員会
6日(日) 2019パイロットウォーク
7日(月) 2019年度第1回奈良障害者フォーラム代表者会議
8日(火) 令和元年度奈良県障害者計画改定に関する説明会
9日(水) 相談会 高次脳機能障害支援地域相談会打ち合わせ
11日(金) リハ講習会会場(学園前ホール)打ち合わせ
13日(日) 相談会 定例会・あゆみの会
18日(金) NP0法人日本高次脳機能障害友の会全国大会inかがわ 交流会
19日(土) NP0法人日本高次脳機能障害友の会全国大会inかがわ
24日(木) 第67回精神保健福祉全国大会
28日(月) 相談会
11月 4日(月) 高次脳機能障害支援地域相談会
9日(土) 相談会 役員会

☆ご支援ありがとうございます(令和元年10・11月分 順不同敬称略)

賛助会費 1名(匿名)

寄付 森田修幸 大崎久子

☆クリスマス会のお知らせ

12月の定例会・あゆみの会は、みんなで楽しむクリスマス会になります。
詳しくは同送の「あゆみの会 お知らせ」をごらんください。
皆さんのお申し込み、待っています。

☆奈良パイロットクラブ チャリティバザーのお知らせ

日時: 12月15日(日) 12:00～15:00

場所: 奈良市中部公民館(上三条町)

あすかも出店します。ぜひおいでください。

☆ソロプチミストバザーの報告

11月18日(月)

売り上げは9,350円でした。

報告 ”2019” パイロットウォーク

日時: 2019年10月6日(日) 10:00～12:30 会場: 奈良市中部公民館
ウォーク: 中部公民館→三条通り→猿沢池→五十二段階下

奈良パイロットクラブ主催のパイロットウォークにあすかから6名参加しました。

初めに公民館ホールで音楽療法士の朝野典子氏による「歌って歩いて健康づくり」。皆でいろいろな楽器を使って歌ったり、リズムをとって体を動かしたり、あっという間に1時間が過ぎました。

簡単なお食事と交流タイムを楽しんだ後、警察官の先導で安全に三条通りから興福寺階段下までウォークをしました。お天気も良くなって、おしゃべりしながら元気に歩けました。(工藤・山田)

報告 NPO法人日本高次脳機能障害友の会全国大会 inかがわ

日時：2019年10月18日（金）交流会 10月19日（土）大会

私は、18日の運営委員会から出席しました。

支援法の進捗状況がずっと気になっていましたが、支援法に関する報告では、色々な場面で取り上げられているもののまだ形にはなっていないが、議員さんとのつながりもある、来年福島で全国大会をするので、福島の議員さんと足並み揃えて行ってほしい、他の患者団体とコンタクトを取っていききたい、というようなことでした。

大会で発表するアピール文は、支援法の成立を訴えるという1点に絞って推敲しました。

交流会は、全国に散らばっている友の会の人達と年に一度の再会の機会なので楽しみです。奈良からの参加者が少ないのは、やはり寂しいです。

大会当日のプログラムは、例年通り大変盛りだくさんでした。

開会式の中で当事者活動奨励賞の授与があり、「グループかたつむり（おかやま脳外傷友の会モモ会員）」、「小沢祐紀さん（山梨県高次脳機能障害を考える会甲斐路会員）」、「松本晃一さん（かがわ脳外傷友の会ぼちぼち会員）」の3者に贈られました。

3省からのガイダンス講演は、文科省からは新学習指導要領の改訂のポイントとして高等部において高次脳機能障害に対する配慮が明記され進歩を感じました。厚生労働省からは、「厚生労働科学研究」の取り組みで「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援マニュアルの開発のための研究（平成30年度～平成31年度）」で、各種障害福祉サービス利用時に障害特性に応じた対応がされているか現状の実態調査及び分析を行い、障害福祉サービス事業者向けの支援マニュアルを作成することで高次脳機能障害者への適切な支援に繋げるとのことでした。国交省からは、NASVAの活動の紹介などがありました。情報発信として「NASVA介護者なき後」で検索してくださいとありました。

基調講演も興味深く、畠山哲宗先生からは画像診断について詳しい説明がありました。河井信行先生からは、臨床的なお立場からの発信がありました。自動車運転再開の問題点についても話されました。鈴木智敦先生は元厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課地域生活支援推進室で相談支援専門官をされていたので、国の立場と現場の両方からの視点を持つ発信でした。「これからの高次脳機能障害児・者をささえるしくみ」という演題で、具体的な支援場面からのお話と、発達障害支援法を引き合いに出しながら、高次脳機能障害支援法の立法化に向けての総意の高揚をはかっておられました。

シンポジウムは地元かがわでの事例の、当事者夫妻と支援者による発表でした。

☆第20回奈良高次脳機能障害リハビリテーション講習会

日時：2019年11月17日（日）12:45～16:30 会場：学園前ホール

約190名の参加がありました。

講習会に参加して

早川 絵菜（あすか会員）

私は、今まで高次脳機能障害とは、記憶障害・注意障害・遂行機能障害・社会的行動障害ということは理解していました。しかし、今回の講習を聞いて、自分の理解はごくわずかなのだと感じました。実際に、社会的行動障害は高次脳機能障害者のうち81%がこれらの症状1つ以上もっていることを知りませんでした。

そして、何より頭部損傷7年後の本人の自覚と家族の訴えとの差が結構あり、高次脳機能障害者が気づいている記憶・注意等の問題・困難に比べて家族は同じことを20%以上も気づいているということがわかりました。

今回のテーマの「気づき」は、高次脳機能のリハビリに大事なことで、自分が何に困っているのか分かっていると、今の自分と向き合えるので、気づきは大事なことだと思いました。しかし、気づくことは大事ですが、気づきはゴールではなく、そこからさらに理解へつなぐことがとても大切なことと、お話を聞いてわかりました。

最後に、今回のテーマの理解と気づきは、深い関係があることがわかりました。何かに気づいたことで、さらに理解が深まるということがとても素晴らしいと思いました。そして、高次脳機能障害のこと病気のこと、自分が何に困っているか等を自分では理解しているつもりでも、実際はまだ理解していないこともあることに実感し、今後も色々なことに気づき、そして理解を深めていきたいと思いました。

☆高次脳機能障害支援地域相談会

＜家族会・高次脳機能障害支援センター合同企画＞

日時：2019年11月4日（祝）13:00～16:00 会場：奈良県社会福祉センター 研修室

相談会に参加して

中川慎祐（あすか会員・社会福祉士）

初めての合同相談会ということで手探り状態なところもあったが、3組の相談者があり、まずは全員で座談会形式で自己紹介などした後、それぞれの相談内容に合わせて担当者を割り振りして個別で相談を受けた。いろいろな問題や悩み事について、公的な機関につないでもらえることは相談者からすれば非常にありがたいし、道筋が見えて気持ち的にも楽に感じると思う。良い試みだったのではないかな。

今回は「家族の立場から相談にのってほしい」という支援センターからの依頼があり、合同相談会となったが、あすかは県の事業として単独での相談会も始めている。家族支援のため「家族の立場でしかわからない悩みを共感して話を聞き、少しのアドバイスと気持ちが楽になれば」との思いで受けた事業だが、事業としてやっていくのであればまだまだ詰めていくことがたくさんあると感じた。